

お助け!!
探偵局
 真相徹底追究

題字：下河巻史選手



依頼書

今年もパラアスリートとボートレーサーによる「アスリートキャンプ」を碧南訓練所で行うので、ぜひ調査に来てください!

日本モーターボート選手会

昨年交流した小学生たちからのお礼の言葉



今年も地元・西端小学校5年生を招き、ウェルカムレースを実施。レース場とは違うかわいい歓声が上がった

アスリートキャンプ2年連続開催

日本モーターボート選手会は、パラスポーツ9競技団体が構成された「P.UNITED」とパートナーシップを締結し、昨年コラボイベント「アスリートキャンプ」を行った。今回は1年ぶりの第2弾。ボートレーサー、パラアスリートともに12人ずつが参加し、お互いを高め合う1泊2日の合同合宿となった。

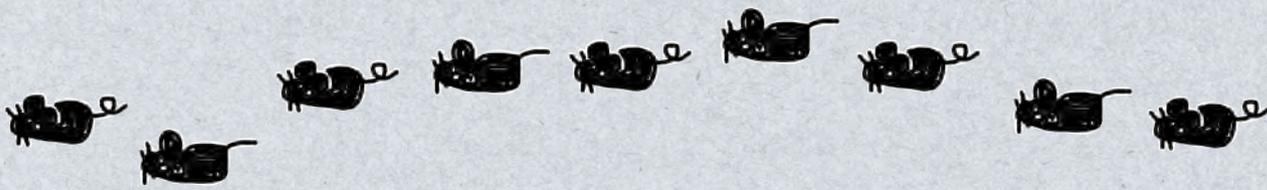
日本モーターボート選手会

- 3233 小畑実成
- 3644 矢橋成介
- 3813 佐藤大介
- 4062 後藤陽介
- 4228 吉田慎二郎
- 4483 北野輝季
- 4786 佐藤博亮
- 5061 中村駿平
- 5169 堀本翔太
- 5305 伊藤栞
- 5319 近藤颯斗
- 5346 中村紋夕梨



P.UNITED

- 高橋宏美(車いすカーリング)
- 加治良美(パラカヌー)
- 加藤隆典(パラカヌー)
- 高木裕太(パラカヌー)
- 稲葉将(障がい者乗馬)
- 斎藤康弘(パラ射撃)
- 金尾克(パラ射撃)
- 高田悠斗(障害者アーチェリー)
- 地白光佑(障がい者卓球)
- 山本恵理(パラパワーリフティング)
- 大堂秀樹(パラパワーリフティング)
- 宮原紀彦(パラフェンシング)



DAY 1

パラスポーツを体験

小学生との交流が終わると、ボート選手たちもフェンシング、射撃、卓球といったパラスポーツを体験した。パラアスリートたちも自身の競技だけでなく、他の競技にも挑戦。やはり根っからのアスリート同士、負けず嫌いの血が騒ぎ、大いに盛り上がった。また、2年連続参加となった馬術の稲葉将選手もいたので、「次は馬に乗りたいです」との声が多数挙がった。実現するか。



小学生にボートレースをアピール

小学生の体験会は、去年はパラスポーツのみだったが、今回はボートレースもしっかりアピール。本物のボートを使った乗艇体験やプロペラ叩きなど、親切丁寧にレクチャー。モンキーターンの姿勢が意外と難しかったり、プロペラ調整のコツをつかんだことを喜び

子もいるなど、終始にぎやかだった。この中から未来のボートレーサーが生まれるかも。



活発な意見交換が行われる懇親会

食事やお酒で距離が縮まる懇親会。昨年もこの時間が非常に盛り上がり、活発な意見交換が行われた。そして宴は未明まで続くのであった。



伊藤菜、自信をつける

懇親会の余興として行われた車いすフェンシングトーナメント。1回戦はボート選手とパラアスリートで戦い、決勝に勝ち上がったのは伊藤菜と中村紋夕梨。新人女子ボートレーサー対決となった結果は、伊藤菜が優勝した。「練習では全く勝てなかったのが、優勝できるなんて思いませんでした。レースで1着になったことはないんですけど、いつかする初勝利くらい嬉しいですよ」と喜んだ。昨年このイベントに参加した松田真実がその後水神祭を挙げたように、伊藤もこの経験を糧にレースでも結果を出したい。



DAY 2

珠玉のペアボート体験



2日目はパラアスリートにボートレースを体験してもらおう。競技棟では小畑実成、佐藤大介らによるモーターボート解説。そして水面ではペアボート体験会を行った。目玉はやはりペアボート。パラアスリートたちが少年・少女のようにキラキラ目を輝かせていた。

昨年と今年が一番の違いは、ドライバーに若手選手を起用したこと。通常、ペアボートに乗ると目の前の取っ手をしっかり握っておくように言われるが、実は足の踏ん張りもかなり重要。しかしパラアスリートには、足が不自由な人も多く、横Gに対して弱いので、運転には細心の注意を払わなければならない。そのため、今回はベテラン選手たちがドライバーを担当したが、今回は「この経験が必ず糧になる」という思いから若手が担当した。その際「ターンマークを外せよ」と普段とは真逆のアドバイスをしていたのが印象的だった。

横Gやスピードに耐えられて、希望する人には全速モンキーのサービスも。さらにパラアスリートだけでなく、P・Uのサポートスタッフや探偵も試乗させてもらい、ボートレーサーの凄みを実感した1日となった。



探偵もペアボートに乗せてもらいました。ドライバーは堀本翔太選手。めちゃくちゃかわいい顔して、舟の向かせ方やスピードがえげつない。復帰したら全力応援！



佐藤大介(愛知支部長)



後藤陽介(東海地区理事)

ペアボートが若手の自信に

後藤 昨年、このイベントを実施した時に、「続けていくことが大事」と話したんですけど、無事2回目が開催されて、やっぱり得るもの大きいなと実感しますね。

佐藤 前回もそうだったんですけど、特に若い子たちの目が途中から変わるんですよ。

後藤 今回は特に顕著でしたね。懇親会のレクリエーションがきっかけで。

佐藤 伊藤菜や中村紋夕梨はまだ水神祭を挙げてないですけど、こういうのが自信になってくれたらいいなと思います。

後藤 今の新人選手たちってデビューして300連敗、400連敗が珍しくなくなってますよね。そうなるとうしろを向いちゃう子が多い。

水面に出たらガチンコなので、僕らが自信を付けてあげるといことがなかなかできない。

佐藤 持ちペラの時代だったら、師匠や先輩からプロペラをもらって勝つコツをつかむこともあったけどね。

後藤 パラアスリートとの触れ合いで学びも多く、社会的意義も大きな企画ですけど、それ以上に若手にとっては自信をつける絶好の機会。特にペアボートに乗ってもらおうと「ボートレーサーってすごいですね」という言葉で自信が取り戻せるんですよ。僕らにとっては当たり前に乗ってるものでも、他の方にとってはそうじゃない。それを間近に感じ取ってもらいたくて、今回はドライバーに若手を起用したんです。

佐藤 いつも以上に安全運転するようにと口酸っぱく言いましたし、事故なく終わられて良かったです。

後藤 最近はレース場でもペアボートが実施されないで、この機会が余計に貴重です。今回改めて、ペアボートは我々の大きな武器だし、選手が自信をつける絶好の機会だなと感じました。

佐藤 この2回は愛知支部の選手が参加させてもらいましたが、他支部の選手からも参加したいという声をいただいています。次回以降はぜひ実現したいですね。